

令和4年(2022年)8月23日
8月定例教育委員会
報告事項

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果 課題の改善に向けた取組の重点

1 調査結果を踏まえた今後の取組について	1
2 「課題の改善に向けた取組の重点」の活用	2
3 問題別調査結果【小学校 国語】	3
4 問題別調査結果【小学校 算数】	7
5 問題別調査結果【小学校 理科】	9
6 問題別調査結果【中学校 国語】	11
7 問題別調査結果【中学校 数学】	13
8 問題別調査結果【中学校 理科】	15
9 分析資料の活用方法(S-P表・学力層分析)	17

令和4年8月5日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

調査結果を踏まえた今後の取組について

- 本県では、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」により、「読み解く力」の育成に重点をおいて、「学びを実感できる授業づくり」「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」の3つの視点から学ぶ力向上の取組を推進しています。各学校においても、「我が校の学ぶ力向上策」を作成し、取組を進めていただいているところです。
- このような中、令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果が提供されました。この結果は、子どもたちのつまずきや困り感を知るのに有効です。各学校においては、調査結果を分析することで、子ども一人ひとりの学びの状況をしっかりと把握し、各学校の課題に応じた取組を進めていただくことが重要です。そして、子どもたちの「分かった」「できた」という喜びや達成感につながるよう、共に取り組んでいきましょう。

調査結果を踏まえた2学期からの取組

- 「課題の改善に向けた取組の重点」にもとづいた各校の具体的な取組
本冊子では、分析資料の活用方法や、子どもたちのつまずきに着目した、教科ごとの課題の改善に向けた取組をまとめています。本冊子を参考に、自校の調査結果を分析して課題を明らかにした上で、2学期以降の授業等において取組を進めていきましょう。
 - ・分析資料を活用した課題の焦点化と取組の明確化
「解答状況整理表（S-P表）」や「学力層（四分位）分析グラフ」等の分析資料を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着等を含めて各学校の課題を焦点化します。その上で「重点的に指導すべき点」を明らかにし、教職員全体で共通理解を図ります。
 - ・全ての教職員による「重点的に指導する内容」の共通実践
明らかになった「重点的に指導すべき点」を踏まえて、本冊子でまとめている教科ごとの取組や調査の関連資料等を参考に、共通実践を進めます。
 - ・「学びの基礎チャレンジ」等や「学びのアンケート」を活用した検証・改善
「学びの基礎チャレンジ」や「学びのアンケート」では、教科ごとの課題の改善に向けた取組に関連した問題・質問を出題します。この他に「学校評価」の結果等も踏まえ、自校の取組を評価するとともに、子ども一人ひとりの学習状況を把握し、課題解決に向けた取組を継続的にを行います。

今後特に継続して行う取組

- 基礎・基本の定着のための取組の見直し
子どもたちの基礎・基本の定着を図るためのこれまでの取組について見直し、共通実践していきましょう。
- 「読み解く力」の視点を踏まえた授業の充実
子ども一人ひとりが学びの成果を実感し、学んだことや意欲、問題意識等を次の授業につなげられるよう、授業の時間内に「まとめ」や「適用問題」、「振り返り」の時間をしっかり確保し、それらの質的な改善に取り組ましましょう。
- 家庭学習や読書活動の充実
子どもたちへの家庭学習の課題の出し方等について、学校全体で共通理解して取り組んでいきましょう。そして、子どもたちに、家庭学習の取り組み方について具体的に伝えていきましょう。また、家庭においても、読書に取り組めるように支援していきましょう。

「課題の改善に向けた取組の重点」の活用

① 分析資料等を活用し、課題を焦点化する。

・「調査結果概況」「問題別調査結果」だけでなく、S-P 表、学力層(四分位)分析グラフ等の分析資料を活用し、学校として大まかな課題ではなく、「重点的に指導すべきと考えられる設問」を絞りこみ、課題をできるだけ焦点化します。

② 「重点的に指導すべき点」を明らかにする。

・焦点化した課題について、「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を考え、「重点的に指導すべき点」を明らかにします。
・平均正答率だけでなく、解答類型等も参考にしながら、誤答の要因を分析します。

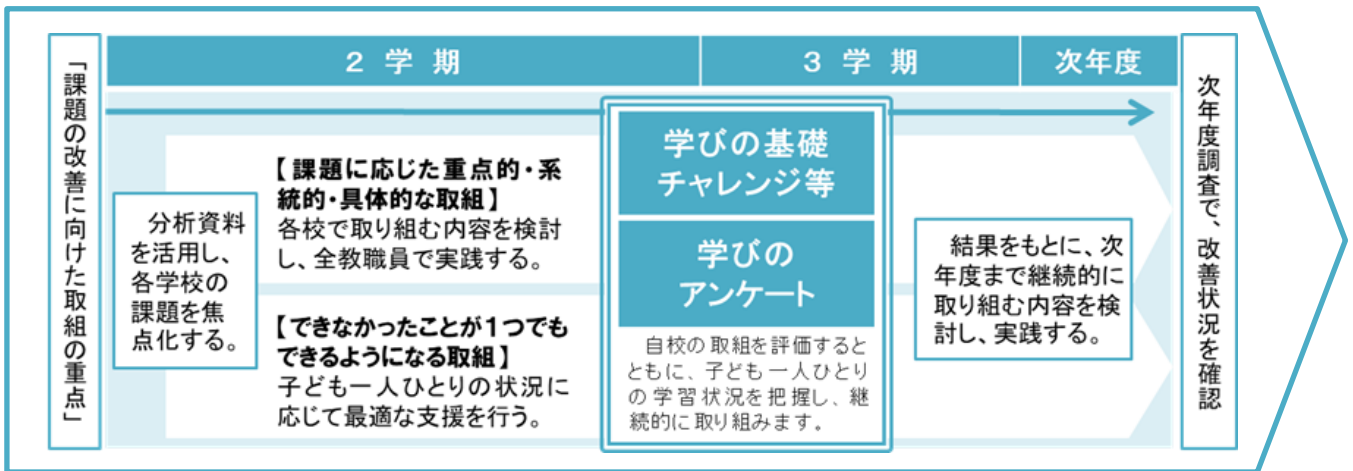
③ 2学期に全教職員で取り組む具体的な内容を検討し、実践する。

・明らかになった「重点的に指導すべき点」を基に、全教職員が各自の授業実践で取り組むことを出し合いながら、協議をします。学校や学年で統一して取り組む内容は、できるだけ焦点化・具体化を図り、全職員が日常的に実践できるようにします。

④ 取組を定期的に検証・改善する。

・短時間でも、取組について各自が振り返る時間を設定し、成果や課題、効果を実感した取組、実践上の悩み等を共有し、明日からの実践につなげます。

■ 「課題の改善に向けた取組の重点」に係るスケジュール



■ 本資料の他に参考にしていただきたい資料

関連資料 (県教育委員会作成)

調査結果の概要

本県の調査結果の概要(成果・課題)をまとめています。



調査問題の分析

「読み解く力」に関連する問題等について分析しています。



・ガッテン!!プリント ・「読み解く力」対応 学習プリント

課題の改善につながる補充学習プリントです。

※ダウンロードには、各学校園に配布されているIDとパスワードが必要です。



関連資料 (国立教育政策研究所作成)

国立教育政策研究所作成の以下の資料も参考にしてください。

- ◆ 調査問題・正答例・解説資料
- ◆ 報告書【速報版】・調査結果資料
- ◆ 授業アイデア例一覧(報告書に掲載)



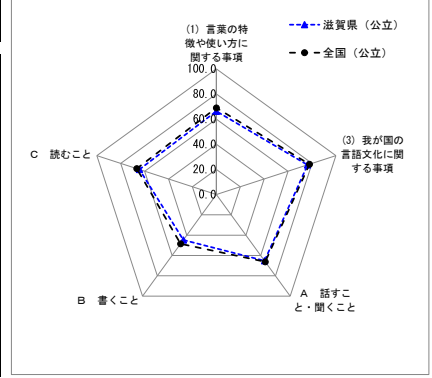
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数		滋賀県（公立）	全国（公立）
		219	18,668			12,632	965,308
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）				
			滋賀県（公立）	全国（公立）			
全体					14	63	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	66.3	69.0		
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	76.3	77.9		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	65.2	66.2		
B 書くこと		2	44.7	48.5			
C 読むこと		4	64.4	66.6			
評価の観点	知識・技能	6	68.0	70.5			
	思考・判断・表現	8	59.7	62.0			
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	8	70.2	71.8			
	短答式	3	59.5	63.6			
	記述式	3	48.4	51.3			

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）				
			知識及び技能					選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項									
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5・6イ					83.5	85.5	1.1	0.9			
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6ア					69.4	68.8	1.1	1.0			
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明が聞きたいことを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える			3・4エ			83.9	84.7	1.1	1.0			
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□□□□でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる			5・6オ			46.4	47.7	3.7	3.0			
2一（1）	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える				3・4イ		67.5	68.4	1.1	1.0			
2一（2）	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える			5・6イ			69.0	70.6	1.7	1.6			
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の□□□□に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する			5・6エ			64.6	68.3	13.9	12.2			
2三	【山村さんの文章】の□□□□に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える			5・6エ			56.6	59.2	3.7	3.2			
3一	【文章2】の□□□□の部分を、どのように気をつけて書いたか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える			5・6オ			55.2	59.2	2.6	2.5			
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよきを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける			5・6カ			34.2	37.7	17.4	14.5			
3三ア	【文章2】の中の□□□□部アを、漢字を使って書き直す（みくが）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6エ					62.1	65.2	8.1	8.1			
3三イ	【文章2】の中の□□□□部イを、漢字を使って書き直す（はんせい）		5・6エ					53.8	58.7	10.2	10.2			
3三ウ	【文章2】の中の□□□□部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）		5・6エ					62.8	67.1	15.0	14.7			
3四	（一）から（二）に書き直した際、気をつけた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く			3・4エ（イ）			76.3	77.9	5.9	5.9			

【小学校 国語】調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ ③二の問題の正答率は34.2%（全国比-3.5）である。「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」に課題が見られる。→取組①
- ・ ②二の問題の正答率は64.6%（全国比-3.7）である。「人物像や物語の全体像を具体的に想像すること」に課題が見られる。→取組②
- ・ ③三の問題の平均正答率は59.5%（全国比-4.1）である。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」に課題が見られる。→取組③

課題の改善に向けた取組①

③二

身に付けたい力に迫るための目的や意図のある交流を仕組んだり、交流したことを基に自分の文のよさを見つけたりする指導を工夫する。

- ・ 課題改善のためには、「B書くこと」の（1）の「共有」に関する指導事項について、低学年から意識して指導していくことが大切である。

* 自分の文章のよいところとして、第1・2学年では「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3・4学年では「書こうとしたことの明確さ」、第5・6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見付けることができるように、系統的に指導する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 「何を、誰に、何のために書くのか」等、書く目的や相手を明確にして学習課題を設定する。

例：学校生活を楽しいものにするために、自分たちにできる工夫を全校に提案しよう

- ・ 内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見が区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切か等、観点を明確にして交流する。



みなさんはこれまで、「六年生としてがんばりたいこと」を明確に伝えるために、文章全体の構成や表し方を工夫して書いてきましたね。

この時間は、みなさんが書いてきた文章を読み合っ、感想や意見を伝え合い、友だちの文章や自分の文章のよいところを見つけましょう。

- ・ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、交流したことを基に、自分の文章のよさを振り返る活動を取り入れる。



友達の文章について意見や感想をたくさん伝え合うことができましたね。この時間の振り返りとして、伝え合ったことを基にして、自分が書いた文章のよさについて書きましょう。

「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読む指導を充実させる。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・複数の叙述を基に表現の効果を捉える言語活動を取り入れる。

例：人と動物との心の交流が描かれている物語を読み、友だちと推薦し合おう



人と動物との心の交流が描かれている物語を読んで、友だちと推薦し合ひましょう。複数の言葉や文を基にして、物語全体を通して描かれていることを推薦できるようにしましょう。

今回は、図書館の先生に物語を紹介していただき、推薦したい物語を選びましょう。

- ・読む目的や読みの観点（登場人物の人物像、登場人物の相互関係、物語の展開、表現の効果など）を明確にする。
- ・物語全体の場面が俯瞰できる全文掲示や全文シートを用いる。

児童自身が、気づいたことや考えたことを記入した付箋をつなげて考える。
物語が伝えてくれること
夢をもち続けられ、いつかかなえられるということ

【全文を掲載したシートの例（一部）】

「宇宙ものの専門店なの？」とさくくと、老人は「まあ、そうだ、わしは、他のものには興味がありません。」

「へえ、ぼくもそう。」

「ぼくは、うれしくなって、ランドセルを床におく。展示室にさわっていい？」

「もちろん。」

「展示室の奥で老人は、目を凝らした。きみが手にしたやつなんて、なかなかの考えたんじゃよ。」

それは、全長七十センチ、直径三十センチほどの楕円の宇宙船の模型で、船首の四角も船尾の七角の扉も、船体の真ん中につけた大きな窓も、先週、四角の扉も、楕円の七角の扉も、ついでに宇宙船の舷にもつくられた。

「いい、もしかしたら二人乗り？」

「そうだよ」と、老人はこももに言った。

「でき、準備室のほかに、キャビンひとつ、お風呂とトイレとキッチンがいろいろあるよ。」

「あるよ、でも、そんなにいいかな？」

老人は微笑そうにうなずいた。

「すごいや。」

↓ ぼくが考えたこと
↓ ぼくが関係があることを遡回しに
えがいている

↓ 同じ同名
↓ 同一人物かもしれない

↓ だれにもなかったことがない
↓ 老人は未来のぼくかもしれない

【物語の一部】は、野上皖編『ものがたり12か月 秋ものがたり』（2008年9月 借成社）収録 那須田淳『銀色の幻想』による。問題作成の都合上、一部表記を改めたところがある。

- ・児童が、「人物の関係を捉えたい」など、目的意識をもって交流できるようにする。



同じ物語を選んだ友だちと、登場人物同士の関係が分かる描写に着目して、話し合ひましょう。

- ・表現面に着目して推薦する文章をまとめたり、交流したりする際に、どのような言葉を用いるとよいかなどを具体的に指導する。

例：○○という一文が～を印象付けている。

○○な表現が文章全体にちりばめられている。

○○を通して、○○が伝わってくる物語

- ・関連図書を、授業で活用する。

* 指導事項や言語活動を踏まえて本を選んだり、児童の実態を踏まえて冊数やページ数などを考慮したりする。

* 司書教諭や学校司書と連携して、本を用意したり、ブックトーク等で紹介したりする。

課題の改善に向けた取組③

3三

漢字のもつ意味を考えながら、既習の漢字を、文や文章の中で正しく使うことができるよう指導する。

○学習指導に当たって（取組の例）

低学年・漢字の字形と具体的な事物（事実や絵など）を結び付けるなどの指導を工夫する。
・漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことを大切にし、文脈の中での意味と結び付けていく。

中学年・新出漢字の学習の際には、漢字辞典や ICT 機器を使い、漢字の読みや意味などを調べる活動を取り入れる。
・漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導する。

高学年・「収める」、「納める」、「修める」、「治める」などの同音異義語に注意するなど、考えて使う習慣が身に付くよう指導する。
・書いた文章を互いに読み合い、漢字のもつ意味を考えながら正しく使用しているかどうかを話し合う。

- ・一人ひとりの学習状況に応じて「ガッテンプリント」などを用いて、繰り返し家庭学習で取り組む。（100 から 605・1201 から 1219）
- ・学習した漢字を活用できるように、子ども自身がどこまで覚えたか確かめながら、身に付くまで必要な回数や方法で繰り返し練習していくような丁寧な声かけが大切である。
- ・従来のノートに書く指導に加えて、単元の中で、効果的に ICT 機器の活用を位置付ける。
- ・1人1台端末を使ったドリル等を授業や家庭学習で活用する。



国語科として大切にしたいこと

○学習指導に当たって

- ・学習指導要領解説を確認し、身に付けたい力を明確にする。

* 学習指導要領（平成 29 年告示）解説「国語編」付録 4「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表（小・中学校国語科）」で指導事項と他の学年とのつながりを確認する。その後、第 3 章「各学年の内容」に戻り、指導事項についての詳細を理解する。

- ・身に付けたい力に合った適切な言語活動を設定する。
 - * 指導事項を身に付けるために適切であり、児童の興味・関心や学習の必然性を踏まえた言語活動であるかなどを確認する。
- ・単元の計画を立てる。
 - * 単元のまとまりを見通して、知識及び技能が習得されること、思考力、判断力、表現力等を育成することを念頭に置いて単元計画を立てる。
 - * 単元のゴールを見据えた学習計画を立てることで、子どもたちが見通しをもてるようにする。
- ・目的や意図を明確にして交流する。
 - * 「何のために話し合うのか」、「話し合ったことをどのように生かすのか」などを明確にし、子どもたちが理解したうえで話し合えるようにする。

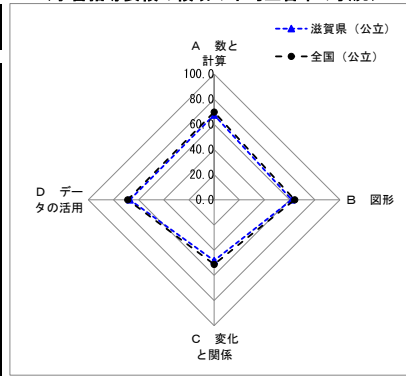
・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象児童数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	219	18,667		12,637	965,431
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体			16	61	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	67.5	69.8	
	B 図形	4	61.7	64.0	
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	48.3	51.3	
評価の観点	D データの活用	3	67.0	68.7	
	知識・技能	9	66.0	68.2	
	思考・判断・表現	7	54.1	56.7	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	6	50.2	51.8	
	短答式	6	73.9	76.5	
	記述式	4	57.1	60.2	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)	
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3(1) 7(2)					○		○	91.8	92.4	0.4	0.3
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) 7(4)					○		○	68.9	72.2	3.6	3.0
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(4) 4(7) 4(3) 7(4)					○		○	74.8	76.0	6.4	5.2
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4(2) 4(7)					○	○		32.5	34.8	1.1	0.9
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる				5(3) 7(4)		○		○	67.6	71.1	4.6	3.9
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) 7(4)		○		○	61.6	64.6	3.8	3.3
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) 7(4)		○		○	20.7	21.4	1.2	1.1
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) 4(7)		○		○	43.2	48.0	5.9	5.5
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(6) 7(7)				3(1) 7(7)	○		○	72.3	75.3	2.5	2.1
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる					3(1) 4(7)	○		○	63.3	63.9	1.9	1.6
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取るることができる					5(1) 7(7)	○		○	65.5	66.8	2.4	2.2
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(6) 7(7) 4(7)					○		○	64.8	67.7	10.1	8.6
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかきことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3(1) 7(7) 4(5) 7(7) 4(7)					○		○	45.8	48.8	4.4	3.8
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している						○		○	81.6	83.2	5.2	4.7
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかきことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している						○		○	64.5	66.5	5.2	4.6
4(4)	示されたプログラムでかきことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる						○		○	54.8	57.6	5.8	5.1

【小学校 算数】調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ ② (3) 「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」問題の正答率は 20.7% (全国比-0.7) である。数量が変わっても割合は変わらないことを理解していない。→取組①
- ・ ② (4) 「果汁が 30%含まれている飲み物に果汁が 180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く」問題の正答率は 43.2% (全国比-4.8) である。「比例の関係を用了、数量の求め方を記述すること」に課題が見られる。→取組②

課題の改善に向けた取組①

② (3)

日常生活の具体的な場面と関連付けて、割合について考察する学習活動を充実させる。

○学習指導に当たって (取組の例)

- ・ 果汁が含まれた飲み物を二つに等しく分けても、果汁の濃さは変わらないという生活経験を想起しながら、果汁の割合は変化しないと判断する活動を設定する。

果汁20%
飲み物の量 500mL
果汁の量 100mL

分けても、飲み物の濃さは変わらない。

<モデル化>

100%
20%
100mL
500mL

50mL 50mL
250mL 250mL

50mL 50mL
250mL 250mL

「果汁の割合は変わらないのか確かめてみましょう。」

ポイント

(比較量) ÷ (基準量) = (割合) の式を基に、飲み物に含まれる果汁の割合を求めることができるようにすることが大切である。

飲み物の量	果汁の量	果汁の割合
500mL	100mL	20%
250mL	50mL	20%

課題の改善に向けた取組②

② (4)

問題場面から二つの数量の関係に着目し、変化の規則性を捉え、その変化の特徴を用いて問題を解決する学習活動を充実させる。

○学習指導に当たって (取組の例)

- ・ 伴って変わる二つの数量のデータを何組か集めて表に整理し、比例の関係を見いだす活動を設定する。

「果汁の量と飲み物の量のデータを整理した表から、二つの数量はどのような関係といえますか」

ポイント

果汁の量が2倍、3倍、…になると、それに伴って飲み物の量も2倍、3倍、…になっているという比例の関係を捉え、未知の数量を求めることができるように指導する。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

□倍

・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

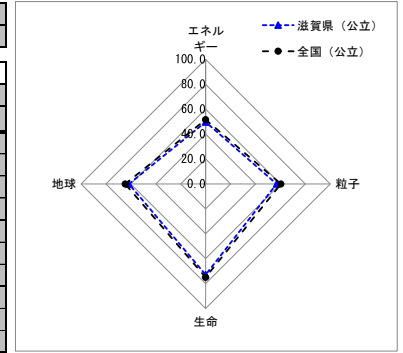
集計結果

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象児童数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	219	18,601		12,640	965,761

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体					
		17	61	63.3	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	49.7	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	56.9	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	72.9	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	61.6	64.6
評価の観点	知識・技能	6	59.4	62.5	
	思考・判断・表現	11	61.4	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	64.8	66.8	
	短答式	3	61.4	66.2	
	記述式	3	45.0	47.3	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			A区分	B区分	滋賀県(公立)			全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域			「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1(1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる		3B(117/17)※		○	○	92.4	92.9	0.2	0.2
1(2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3B(117/17)※		○	○	64.5	67.5	6.6	5.0
1(3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している		3B(117/17)※		○	○	70.6	73.1	0.3	0.3
1(4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B(117/17)※		○	○	73.7	76.1	1.0	0.7
1(5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B(117/17)※		○	○	63.5	65.5	1.7	1.4
2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスリンダーという器具を理解している		4A(217/17)※		○	○	59.8	67.8	12.6	9.8
2(2)	水50mLをはかり取る際に、メスリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスリンダーの正しい扱い方を身に付けている		4A(217/17)※		○	○	68.5	70.0	0.9	0.6
2(3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる		4A(217/17)※		○	○	60.3	62.8	1.2	1.0
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		4A(217/17)※		○	○	38.1	39.3	10.7	8.7
3(1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している		3A(117/17)※		○	○	26.7	27.8	0.6	0.6
3(2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している		3A(117/17)※		○	○	73.1	74.4	1.5	1.3
3(3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる		3A(117/17)※	3B(117/17)※	○	○	66.7	68.9	6.6	5.1
3(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3A(117/17)※		○	○	32.3	35.1	14.1	11.2
4(1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B(117/17)※	○	○	80.2	82.3	1.2	1.0
4(2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる			4B(117/17)※	○	○	60.6	64.5	1.5	1.3
4(3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B(117/17)※	○	○	43.2	45.5	7.9	6.5
4(4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している		4A(217/17)※	4B(117/17)※	○	○	57.6	62.0	7.5	6.2

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。

【小学校 理科】調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ **③**(4)「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く」問題の正答率は32.3%（全国比-2.8）である。「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること」に課題が見られる。→**取組①**
- ・ **②**(1)「一定の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く」問題の正答率は59.8%（全国比-8.0）である。「器具の名称を正しく理解すること」に課題が見られる。→**取組②**

課題の改善に向けた取組①

③(4)

観察、実験などで得た結果について分析して解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 結果を表などに整理し、結果と、その結果から分かることを区別して説明する場面を設定する。その際、**問題の視点**で分析できるように留意する。

【問題】はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのかな。

〈かんの色による水の温度の変化〉

かんの色	時間	0分	20分後	40分後
黒		24℃	28℃	32℃
赤		24℃	27℃	29℃
青		24℃	27℃	30℃
白		24℃	25℃	26℃

【問題の視点で分析できている場合】

- ・「40分後、黒色のかんの水の温度が32度になっている。」
- ・「黒色のかんの水の温度が一番高くなっている。」

【問題の視点で分析できていない場合】

- ・「黒色は光を吸収し、熱をもっている。」

- ・ 問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えを作り出す学習活動を設ける。

例：Aさんの考察【具体的な数値がなく、根拠が不十分な場合】

- ・「黒色のかんの水の温度は、他の色のかんの水の温度よりも高かった。このことから、はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなることが分かった。」



例：話し合い後の考察【結論の根拠が明らかであり、より妥当な考えとなった場合】

- ・「黒色のかんの水の温度は、40分後には32℃で、他の色のかんの水の温度よりも高かった。このことから、はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなることが分かった。」

課題の改善に向けた取組②

②(1)

「実験器具の名称を正しく理解し、観察、実験に関する基本的な技能を身につけることができるようにする。」

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 目的に応じて、どの器具を使用するとよいかについて、器具の特徴や操作の手順と合わせて考えたり話し合ったりする場面を設定する。
- ・ 必要な器具を選択し準備する活動を通して、器具と名称、使う目的を一致させる場面を設定する。

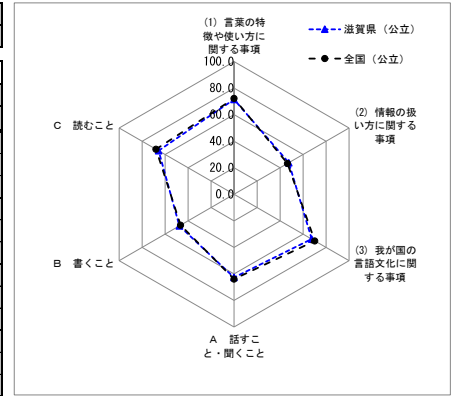
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
		99	9,340		11,742	891,820
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）			
			滋賀県（公立）	全国（公立）		
全体		14	68	69.0		
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	71.5	72.2	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	47.6	46.5	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	67.5	70.2	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.7	63.9	
		B 書くこと	1	47.6	46.5	
		C 読むこと	2	65.7	67.9	
評価の観点	知識・技能	10	67.9	69.0		
	思考・判断・表現	6	61.2	62.3		
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	71.6	73.7		
	短答式	5	70.1	70.3		
	記述式	3	56.1	57.4		

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）				
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識・技能			思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する				1ウ			○	○	73.9	74.7	5.1	3.8
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く				2エ			○	○	63.8	65.1	0.2	0.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのか、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア			1ウ			○	○	50.3	51.8	19.3	16.2
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	2オ						○	○	81.3	82.3	0.5	0.2
2二①	漢字を書く（のぞく）	文脈に即して漢字を正しく書く	2ウ						○	○	82.7	82.1	8.2	8.8
2二②	漢字を書く（よろこんで）		2ウ						○	○	81.7	80.5	3.3	3.3
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く			1イ	1ウ			○	○	47.6	46.5	11.7	9.0
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	1オ						○	○	51.1	52.5	0.9	0.7
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	1ウ						○	○	81.9	84.0	0.5	0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える						1イ	○	○	61.1	62.0	1.4	1.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する				1ウ			○	○	70.3	73.8	17.1	13.3
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する				1エ(4)			○	○	38.1	39.4	1.2	0.9
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する				2ウ(7)			○	○	87.1	90.1	1.3	1.0
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する				2ウ(7)			○	○	77.3	81.1	1.5	1.1

【中学校 国語】調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ **1三**の正答率は50.3%（全国比-1.5）であり、無解答率は19.3%（全国比+3.1）である。「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと」に課題が見られる。→**取組①**
- ・ **4一**の正答率は38.1%（全国比-1.3）である。「行書の特徴を踏まえた書き方についての理解」に課題が見られる。→**取組②**

課題の改善に向けた取組①

1三

自分の考えを分かりやすく伝えるには、どのような工夫が効果的なのかを、聞き手の立場に立って考え、話すことができるように指導を工夫する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、音声での表現に着目した話し方の工夫について知り、そのように話すことで、聞き手がどのように受け止めるかについて考える活動を取り入れる。
 - * スピーチのモデルを示し、聞き手の立場で話し方の工夫による効果を捉える。
- ・ ICT機器を活用してスピーチしている様子を動画で記録する。話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確かめたりして、自分の考えを聞き手に分かりやすく伝える表現の工夫ができる場面を設定する。
 - * スピーチ動画を共有し、明確にした評価のポイントを踏まえて、助言し合う。
 - * 生徒自身が成長の足跡を実感できるように、作成したスピーチの構成メモや撮影したスピーチ動画等を「ポートフォリオ」として保存し、蓄積する。
- ・ 「読み解く力」の視点を踏まえた授業を構想する。
 - * 「読み解く力」の視点を踏まえた授業例は「調査問題の分析」（令和4年5月県教育委員会作成資料）を参照する。

課題の改善に向けた取組②

4一

行書の特徴を理解して、身近な文字を行書で書けるように指導を工夫する。

○学習指導に当たって（取組の例）

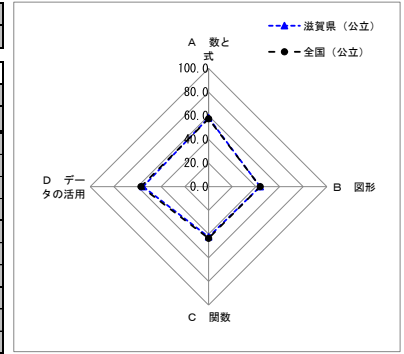
- ・ 行書を学習する目的を理解し、学習計画を立てて見通しをもてるようにする。
 - * 文字の伝達性や表現性などを考えながら、単元のゴールを明確にして、目的や必要に応じて書き分ける。
例「速く正確にメモを取る」「家族に文化祭の案内状を書く」
- ・ 行書で書かれた文字を提示し、行書の特徴に関して気付いたことや分かったことなどについて考えたり、まとめたりする活動を取り入れる。
 - * 「点画の方向や形の変化」「点画の連続」「点画の省略」「筆順の変化」「丸み」などの行書の特徴を伝統的な文字文化とも関連させながら理解する。
 - * 「ガッテンプリント（1220）」を活用する。
- ・ 生徒が行書で書いた文字のよい点や改善点について、行書の特徴を表す言葉を使って交流し、助言を生かして修正する活動を取り入れる。
 - * 行書の特徴に着目し、どのような点を意識するとよいのかを具体的に捉えて、実際に書く。

以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立） 99	全国（公立） 9,339	対象生徒数	滋賀県（公立） 11,756	全国（公立） 891,913
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			滋賀県（公立）	全国（公立）	
全体			14	51	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	58.3	57.4	
	B 図形	3	43.6	43.6	
	C 関数	3	42.4	43.6	
	D データの活用	3	55.3	57.1	
評価の観点	知識・技能	9	60.2	59.9	
	思考・判断・表現	5	34.7	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	51.6	52.6	
	短答式	5	67.1	65.7	
	記述式	5	34.7	36.2	

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）	
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア(イ)				○				○			61.7	52.2	10.0	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ア(イ)				○				○			74.2	74.5	6.7	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している		2(2) ア(イ)			○				○			45.7	44.9	0.5	0.4
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(イ)		○				○			36.2	37.9	0.6	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している				1(2) ア(イ)	○				○			81.3	83.3	0.4	0.3
6 (1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) ア(イ)				○				○			73.6	73.8	6.7	6.0
6 (2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)				○				○			46.6	48.7	22.7	20.0
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ(イ)				○				○			35.5	37.6	29.0	26.2
7 (1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1(1) イ(イ)	○				○			41.5	44.0	1.8	1.4
7 (2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる				2(1) ア(イ)	○				○			43.1	44.1	0.9	0.7
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(イ)		○				○			53.7	54.6	7.4	7.2
8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)		○				○			37.3	38.4	28.0	24.4
9 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2(2) ア(イ)		○				○			72.6	73.2	8.4	7.5
9 (2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2(2) イ(イ)		○				○			12.5	12.5	43.3	38.5

【中学校 数学】調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ [6](2) 「差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する」問題の正答率は46.6%（全国比-2.1）である。「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」に課題が見られる。→取組①
- ・ [7](1) 「コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する」問題の正答率は41.5%（全国比-2.5）である。「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題が見られる。→取組②

課題の改善に向けた取組①

[6](2)

「事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明する活動」を充実する。

○学習指導に当たって（取組の例）

1. 具体的な数を用いて、「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる」ことを調べる場面を設定する。

ポイント

2. 成り立つことを説明するために、4の倍数は $4 \times$ （整数）という形の式で表せばよいという見通しをもって、式を変形できるようにすることが大切である。
3. 証明を振り返り、統合的・発展的に考察する過程を遂行する。
「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる」ことの証明を振り返り、どの部分を変えれば、「差が8である2つの偶数の和は、4の倍数になる」の説明になるといえるか考える場面を設定する。

課題の改善に向けた取組②

[7](1)

「データの分布の傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動」を充実する。

○学習指導に当たって（取組の例）

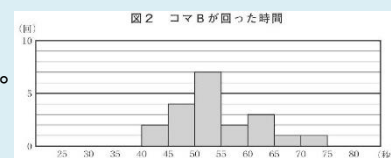
1. コマAとコマBのどちらのコマが長く回りそうかを話し合う場面を設定する。
2. 二つのヒストグラムの特徴を比較して、それぞれの分布の様子を読み取った上で、コマを選ぶ根拠を、最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて記述できるようにすることが大切である。

（コマAを選ぶ場合）

- ・ 「最大値が大きいから」といった生徒の表現を取り上げ、最大値はそれぞれのヒストグラムをどのようにみることによって分かるのかということについて確認する場面を設定する。
- ・ 最大値以外にも、「55秒以上の階級の度数の合計」など判断の根拠となることがあるかどうかについて取り上げ、吟味する。

（コマBを選ぶ場合）

- ・ 「安定しているから」という生徒の表現を取り上げ、そのことについてヒストグラムを基に話し合う場面を設定する。
- ・ 範囲が小さいことを捉え、安定していることを確認する。
- ・ 範囲の大小だけでなく、「コマBの方が範囲が小さく、最小値が大きいから、コマBを選ぶ。」など多面的に吟味し判断することも大切である。



・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

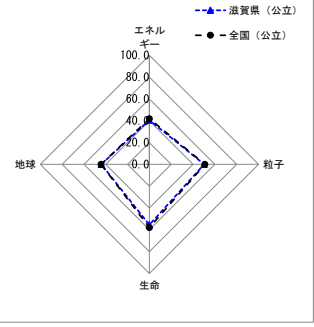
集計結果

対象学校数	滋賀県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	滋賀県(公立)	全国(公立)
	99	9,337		11,759	892,585

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			滋賀県(公立)	全国(公立)
全体				
		21	48	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	40.6	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	50.2	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	55.4	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	44.1	44.3
評価の観点	知識・技能	7	45.5	46.1
	思考・判断・表現	14	49.5	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	15	49.1	49.6
	短答式	1	23.9	24.8
	記述式	5	50.4	53.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			「エネルギー」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域			滋賀県(公立)	全国(公立)	滋賀県(公立)	全国(公立)
1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (7)			○	○	43.3	44.2	0.1	0.1
1(2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	(3) (7)			○	○	75.6	78.5	0.2	0.1
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる			(4) (7)	○	○	52.5	54.2	0.3	0.2
2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる			(4) (4)	○	○	41.1	40.8	0.3	0.3
2(3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる			(4) (4)	○	○	29.8	28.5	0.4	0.3
3(1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4) (4)			○	○	78.4	80.1	0.2	0.1
3(2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使うしくみを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (4)			○	○	61.2	60.2	0.3	0.3
3(3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (7)	(4) (4)		○	○	23.9	24.8	5.1	4.3
4(1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)			○	○	72.3	74.5	6.6	5.5
4(2)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性及び多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)			○	○	64.7	65.6	0.4	0.2
5(1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (4)			○	○	15.1	15.3	0.3	0.2
5(2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (4)			○	○	45.7	45.0	0.5	0.4
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (4)			○	○	39.8	43.3	33.5	29.4
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる			(2) (7)	○	○	47.8	48.0	0.3	0.3
6(2)	陸上のB地点で中生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる			(2) (4)	○	○	60.2	60.3	0.6	0.6
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の傾きに関する知識及び技能を関連付けて、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる			(2) (4)	○	○	33.3	34.2	0.9	0.7
7(1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (2)			○	○	35.8	35.9	0.5	0.4
7(2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) (2)			○	○	51.7	53.4	1.2	1.0
8(1)	アリの行列による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	(3) (2)			○	○	53.0	55.2	12.9	11.6
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	(3) (2)			○	○	52.7	55.1	17.4	14.9
8(3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)			○	○	34.3	39.2	1.6	1.4

【中学校 理科】調査問題の結果から

■設問ごとの顕著な課題

- ・ **8** (3) 「生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する」問題の正答率は34.3% (全国比-4.9) である。「動物の外部形態について共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈すること」に課題が見られる。→ **取組①**
- ・ **5** (3) 「考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定値を増やすかを説明する」問題の正答率は39.8% (全国比-3.5) である。「測定値の増やし方について、測定範囲と刻み幅の両方に着目し、具体的に数値を示して計画すること」に課題が見られる。→ **取組②**

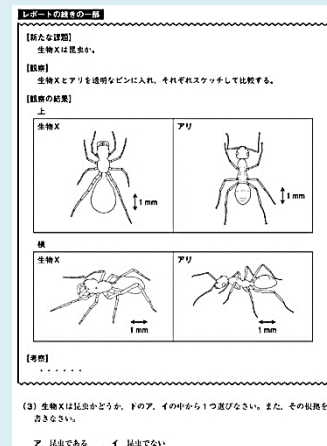
課題の改善に向けた取組①

8 (3)

身近な動物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、それらを基にして動物を分類できるように指導する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 動物を分類する際、主として共通点と相違点の視点で捉え、生徒自らが観点や基準を見いだして分類する学習場面を設定する。
- ・ 生徒自らがどのように判断したか、根拠を説明する際に、主語を明確にして表現するなどの学習活動を意図的に設ける。
- ・ 学習した内容や作成した動物の分類表等と照らし合わせ、生徒が新たに疑問や興味をもった動物について、どの仲間に分類できるかを説明する場面を設け、科学的に探究する学習活動を大切にする。



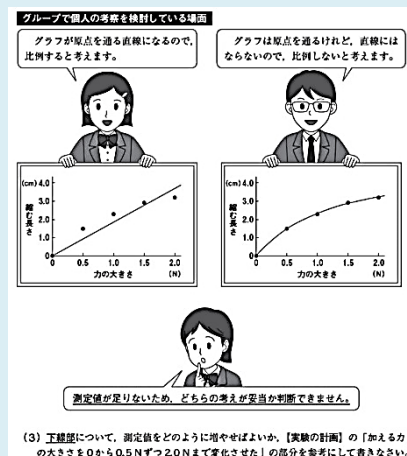
課題の改善に向けた取組②

5 (3)

考察の妥当性を高めるために、追加の実験方法を検討して改善する機会を充実する。

○学習指導に当たって（取組の例）

- ・ 「根拠となるもの」と、課題を意識して「考えたことや判断したこと」を区別しながら記述する学習活動を行うなど、課題に正対する考察が行えるようになるまで、すべての領域で繰り返し指導する。
- ・ 具体的な数値を示した実験の計画や、検討・改善ができるように、生徒に実験結果の整理・分析のためのグラフ作成を促す場合には、生徒自らが実験の目的に応じて、測定する間隔と範囲の両方に着目し、グラフの軸や目盛等をかきこむ場面を設定する。
- ・ 課題に正対する妥当性の高い考察が行えているかどうか、課題に立ち返りながら実験結果の処理について振り返る機会を意図的に設けるようにする。また、改善点を明確にしたうえで、必要な実験の計画を検討するなどの学習場面を充実する。



学校／学級別解答状況整理表(S-P表)の見方について

左から右へ、全国正答率の高い順に問題番号を記載

問題番号	2 (1)	3 (2)	2 (5)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	2 (2)	1 (3)	5 (1)	3 (3)	5 (2)
領域	A	じ	A	C	D	B	D	B	B	A	じ	B	じ	A
問題の概要	はじめの数が10のときの計算結果を求める	グラフから、列車のすれ違いが起これる地点のA駅からの道のりを求める	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の答になるかを求める	列車の運行のようすが図線で表されていることの前提となっている乗客を選ぶ	全校生徒300人に対する上位4番を回答した生徒の割合を求める	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	平行四辺形ABCDを正方形ABCOに変えたときの四角形CEFDがどのような四角形になるかを証明する	平行四辺形ABODの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形になることを証明する	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成させる	全校よりも1年生の回答者の方が多く引きつらなければならない	8社の団体料金の合計が1000円を超えていないようにする	A駅からの道のり	通常料金
全国(公立)正答率	89.0	78.7	37.2	66.2	64.3	64.0	41.8	41.0	40.6	35.8	24.8	14.7	12.0	8.2
正答人数の割合	80.0	68.0	53.0	52.0	64.0	69.0	66.0	23.0	32.0	36.0	28.0	10.0	4.0	
正答人数	20	17	14	13	16	14	5	8	9	9	7	3	1	

赤色

P曲線：
問題ごとに、上から数えて当該学校／学級の正答人数の数にあたる所を結んだ線

例) 該当設問の正答人数が「9名」なので、上から9人目のところに横線が引かれる

S曲線(青)より左側の誤答(黄色セル)
→当該児童生徒にとって比較的設問が容易だったと考えられる設問(不注意による誤答や比較的克服が容易なものと想定される設問)

S曲線(青)より右側の誤答(橙色セル)
→当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問(一人ひとりの児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行うことが有効と考えられる設問)

上から下へ、正答数が多い順に児童生徒を記載

学年	組	答案番号	氏名記入欄	付記欄	解答類型("0"は無解答)														合計	正答数	正答率
3	1	066206			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	8	13	65.0	
3	1	066210			1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	8	8	13	65.0	
3	1	066218			1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	9	9	3	7	11	75.8	
3	1	066205			1	1	1	1	1	1	1	7	1	6	9	9	7	3	10	71.4	
3	1	066206			1	1	1	1	1	1	1	7	1	0	1	1	7	6	10	71.4	
3	1	066206			1	1	1	1	1	1	1	7	2	1	3	1	7	8	10	71.4	
3	1	066198			00	1	1	1	1	1	1	7	1	8	9	1	7	7	9	64.3	
3	1	066204			1	1	4	4	1	1	1	9	1	8	3	1	2	7	9	64.3	
3	1	066208			1	1	1	1	1	1	1	1	2	8	8	8	8	8	9	64.3	
3	1	066213			1	1	4	1	9	1	1	1	1	8	6	6	8	10	7	50.0	
3	1	066227			1	1	1	1	1	1	1	0	7	8	9	9	12	9	7	50.0	
3	1	066203			00	1	1	1	1	2	1	9	7	8	9	8	12	10	6	42.9	
3	1	066226			1	1	1	1	9	3	1	9	7	9	9	1	8	8	8	42.9	
3	1	066201			1	1	2	1	9	1	5	0	8	0	9	0	9	5	5	35.7	
3	1	066217			1	1	4	2	1	2	9	0	7	0	4	0	0	0	4	25.0	
3	1	066220			1	1	4	4	0	1	3	7	7	0	4	9	0	0	4	25.0	
3	1	066224			1	00	4	2	1	3	0	0	2	0	2	8	0	10	3	21.4	
3	1	066200			1	2	1	2	1	2	9	0	7	0	6	0	9	10	3	21.4	
3	1	066199			1	0	2	4	2	3	1	0	3	0	0	0	9	3	3	21.4	
3	1	066211			1	1	5	4	9	4	0	9	3							2	14.3
3	1	066214			1	9	1	2	9	9	9	7								2	14.3
3	1	066216			1	3	4	1	2	9	0	3								2	14.3
3	1	066219			0	0	4	1	0	5	0	0								1	7.1
3	1	066225			0	0	4	4	9	9	0	8								1	7.1
3	1	066209			0	2	4	2	0	2	0	0	7							0	0.0

青色

※数字は解答類型("0"は無解答)
※色付きセルは誤答(無解答含む)
※線が重なった場合は、以下の順で優先して表示される
縦線：青線>赤線>赤点線
横線：赤線>赤点線>青線

S曲線：
児童生徒ごとに、左から数えて当該児童生徒の正答数の数にあたる所を結んだ線

例) 当該児童生徒の正答数が「4問」なので、左から4問目のところに縦線が引かれる

全国正答率
※小数点第1位を四捨五入して表示

当該教科の全国正答率50%以上問題のうち、正答数が2分の1以下だった児童生徒の人数及びその割合(%)

高正答率分析対象	
人数	割合
23	18.1
<	5.1 >
(5.7)

<> 内は都道府県平均との差
() 内は全国(公立)平均との差

分析資料の活用方法（【学力層（四分位）分析グラフ】について）

「学力層（四分位）分析グラフ」の概要

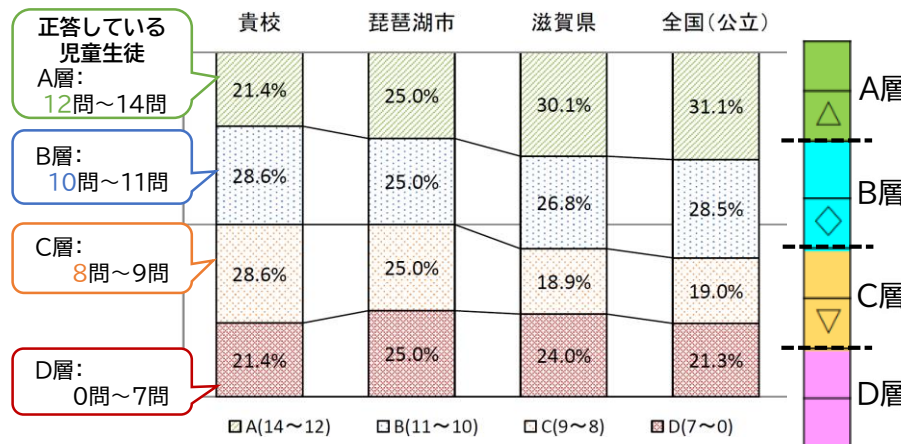
児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

これを活用することにより、集団の現状を客観的に捉え、習熟にあった授業のねらいが焦点化され、手立てを具体化することができます。また、D層（学力低位層）に手だてを講じるだけでよいのかどうか等、習熟度別少人数指導や各学力層の実態に応じた教材・教具の一層の充実を図ることが可能になります。

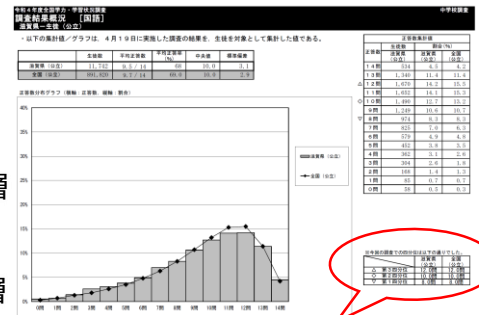
「学力層（四分位）分析グラフ」等の見方

例：中学校国語

各集団のグラフ
全国・県・市町・学校ごとの各層の
児童生徒数の割合を示しています。



文部科学省からの提供資料
(例：中学校国語)



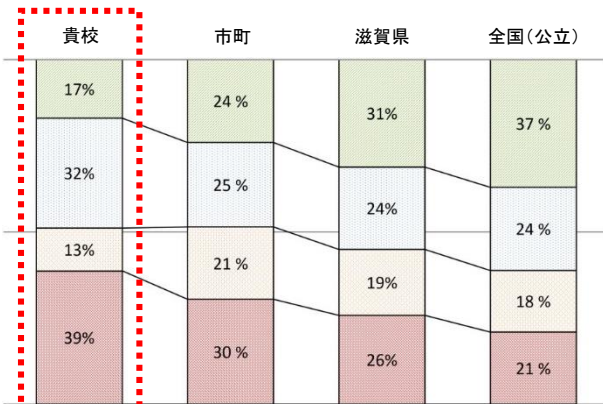
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	滋賀県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

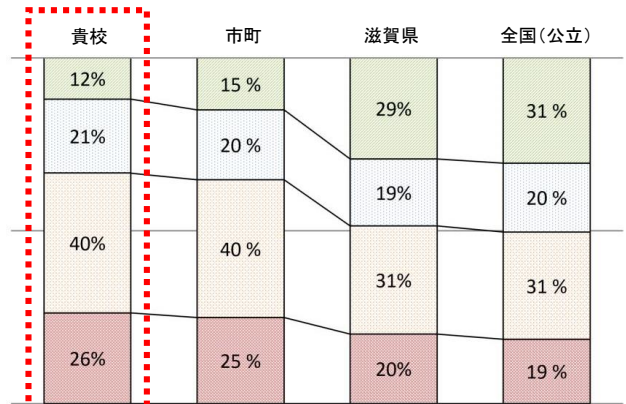
全国の四分位数に基づいて
児童生徒を4つの層に分ける。

子どもたち一人ひとりの確かな学力を育むための具体的な活用方法

【例1】B層とD層の割合が大きい場合



【例2】C層の割合が大きい場合



習熟度別指導の工夫

算数・数学の学習で、習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成し、D層の子どもがC層に、B層の子どもがA層にステップアップできるよう、学習集団に適した指導を行います。また、習熟の程度に合わせた家庭学習の工夫も併せて行います。

「まとめ・振り返り」や適用問題の徹底

C層の子どもに焦点を当てた指導を行うことで、C層の子どもがB層にステップアップできるよう支援します。例えば、毎時間の「まとめ・振り返り」を徹底したり、算数・数学の学習で適用問題を必ず行ったりすることで、学習内容の定着を図ることが考えられます。

分析資料の活用方法【学力層分析グラフの作成について①（市町教育委員会用）】

1. 使用するファイルを校種ごとに開きます。

- ・中学校の場合：【中学校用】R4 四分位グラフ作成ファイル【全国・県・市町・貴校との比較】
- ・小学校の場合：【小学校用】R4 四分位グラフ作成ファイル【全国・県・市町・貴校との比較】

2. 市町名を【校種名】入力用シートのK 1のセルに入力する。

（※入力できるセルは黄色にしてあります。）

学校名	国語	数学	理科	国語	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数	数学	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数	理科	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数
○○中学校	10	3	9	A(14~12)	21.4%	25.0%	30.1%	31.1%	3	A(14~10)	21.4%	25.0%	30.5%	30.5%	3	A(21~13)	21.4%	25.0%	30.9%	30.9%	3
	8	4	5	B(11~10)	28.6%	25.0%	26.8%	28.5%	4	B(9~7)	28.6%	25.0%	26.5%	27.4%	4	B(12~10)	28.6%	25.0%	23.1%	24.5%	4
	10	1	12	C(9~8)	28.6%	25.0%	18.9%	19.0%	4	C(6~4)	28.6%	25.0%	23.6%	23.0%	4	C(9~7)	28.6%	25.0%	23.6%	23.3%	4
	8	6	9	D(7~0)	21.4%	25.0%	24.0%	21.3%	3	D(3~0)	21.4%	25.0%	19.4%	19.0%	3	D(6~0)	21.4%	25.0%	22.5%	19.9%	3
	12	6	8																		
	5	3	11																		
	10	11	13																		
	14	11	9																		
	10	7	13																		
	13	9	12																		
									合計人数 14						合計人数 14						合計人数 14

3. 文部科学省より、市町教育委員会に提供された令和4年度全国学力・学習状況調査 調査結果概況〔各教科〕 正答数集計値より、全国の四分位の正答数に基づいた四分位A B C Dの各層の割合を計算する。

（例）中学校 国語



正答数	正答数集計値			
	数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	滋賀県(公立)	全国(公立)
14問		3.3	4.5	4.2
13問	A	7.7	11.4	11.4
12問		14.0	14.2	15.5
11問	B		14.1	15.3
10問			12.7	13.2
9問	C		10.6	10.7
8問			8.3	8.3
7問	D		7.0	6.3
6問			4.9	4.8
5問			3.8	3.5
4問			3.1	2.6
3問			2.6	1.8
2問			1.4	1.3
1問			0.7	0.7
0問			0.5	0.3

※各層の割合を計算する
 （例）中学校 国語
 A層の割合の合計
 $3.3 + 7.7 + 14.0 = 25.0$

この値を、それぞれ、
 国語 K2~K5
 算数・数学 R2~R5
 理科 Y2~Y5
 のセルに入力する。

※四分位A B C D各層のそれぞれの正答数の範囲は、全国の値と同じにする。

全国 四分位A B C D 正答数の範囲〔中学校〕

国語 A (14問~12問) B (11問~10問) C (9問~8問) D (7問~0問)

数学 A (14問~10問) B (9問~7問) C (6問~4問) D (3問~0問)

理科 A (21問~13問) B (12問~10問) C (9問~7問) D (6問~0問)

全国	四分位A B C D	正答数の範囲〔小学校〕
国語	A (14問～12問) B (11問～10問) C (9問～7問) D (6問～0問)	
数学	A (16問～13問) B (12問～11問) C (10問～8問) D (7問～0問)	
理科	A (17問～14問) B (13問～11問) C (10問～8問) D (7問～0問)	

4. A B C D各層の割合を【中】入力用シートのセル（国語：K 2～K 5, 算数・数学：R 2～R 5, 理科：Y 2～Y 5）に3教科分をそれぞれ入力する。

	I	J	K	L	M	N
1	国語	貴校	琵琶湖市	滋賀県	全国(公立)	人数
2	A(14～12)		25.0%	30.1%	31.1%	3
3	B(11～10)		%	26.8%	28.5%	4
4	C(9～8)		%	18.9%	19.0%	4
5	D(7～0)		%	24.0%	21.3%	3

5. 【中】印刷用シートに、市町のデータがグラフに反映されているか確認する。



※文部科学省から提供された数値の関係上、各層の割合の合計が100%にならない場合があります。

6. 上記5までのデータを反映させた四分位グラフ作成ファイルを、各学校へ送付する。

分析資料の活用方法【学力層分析グラフの作成について②（学校用）】

1. 「入力用シート」のA7のセルに、学校名を入力する。⇒ア
2. 文部科学省より提供された国語、算数・数学、理科の正答数のデータを「入力用シート」の緑色のセル（B7以降、D7以降、F7以降）に受験者全員分入力する。⇒イ

小学校

「[13 桁の数字]_06 解答・回答状況（児童）[2 桁の数字].xlsx」
 （学校番号） （学級番号）

中学校

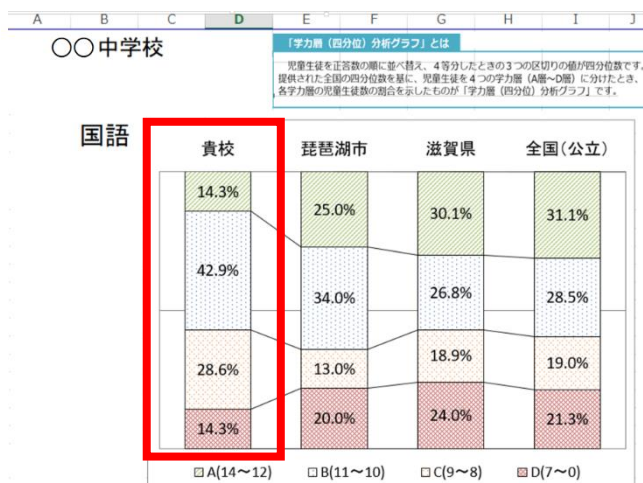
「[13 桁の数字]_06 解答・回答状況（生徒）[2 桁の数字].xlsx」
 （学校番号） （学級番号）

※文部科学省から提供された正答数のデータを取めたファイルは学級（組）ごとに分かれていますので、「入力用シート」には、全学級分を順につなげて入力してください。

The screenshot shows a spreadsheet with columns for subjects (国語, 数学, 理科) and performance levels (A, B, C, D). Callouts include:

- ア** 学校名: A red box highlights the '学校名' (School Name) cell in column A, row 7. A callout bubble says '学校名を入力してください。' (Please enter the school name).
- イ** 正答数: A red box highlights the '正答数' (Correct Answer Count) cells in columns B, C, and D, rows 7-14. A callout bubble says '文部科学省から提供された各教科の正答数のデータを値で入力（貼り付け）してください。' (Please enter the correct answer count data for each subject provided by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology as values (paste) please).
- Another callout bubble says: '貴市町名および、貴市町教育委員会に提供された調査結果概況（〇〇市町—生徒（公立））<正答数>のデータをもとに値を手入力してください。（3教科それぞれ）' (Please manually enter the data based on the survey results overview (〇〇 City/Town—Students (Public)) <Correct Answer Count> provided to your city/town and your city/town education committee for each of the 3 subjects).

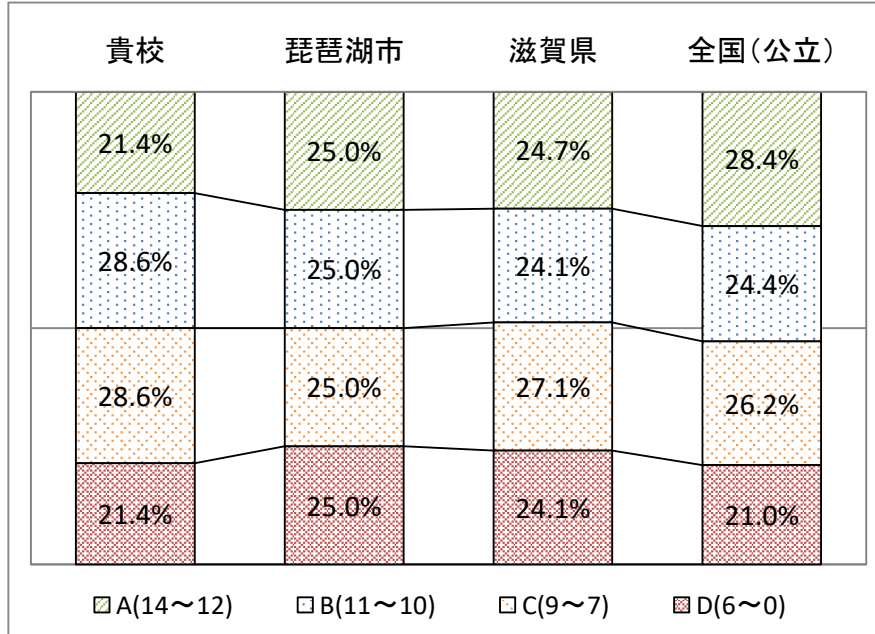
3. 「印刷用シート」のグラフに、学校のデータが反映されていることを確認する。



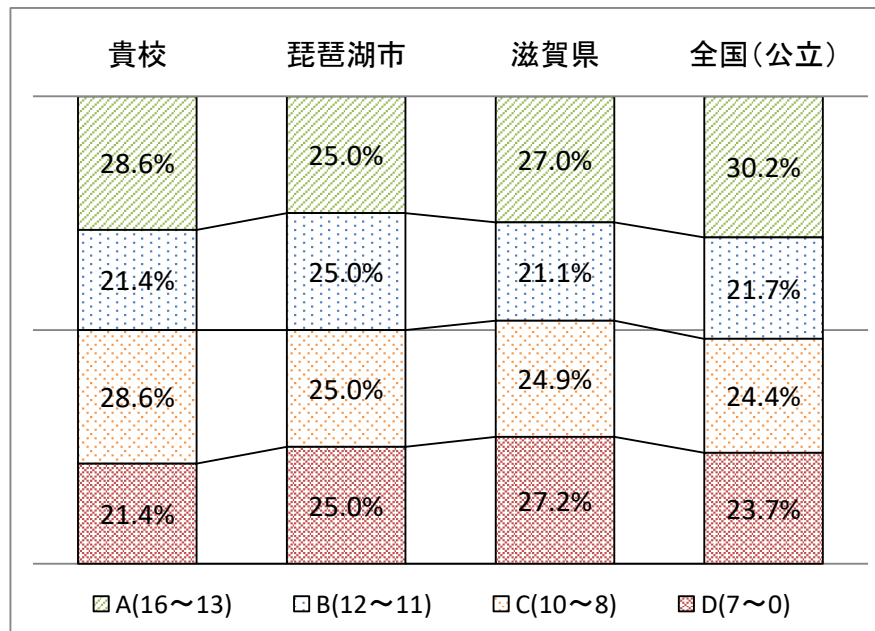
児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

※文部科学省から提供された数値の関係上、各層の割合の合計が100%にならない場合があります。

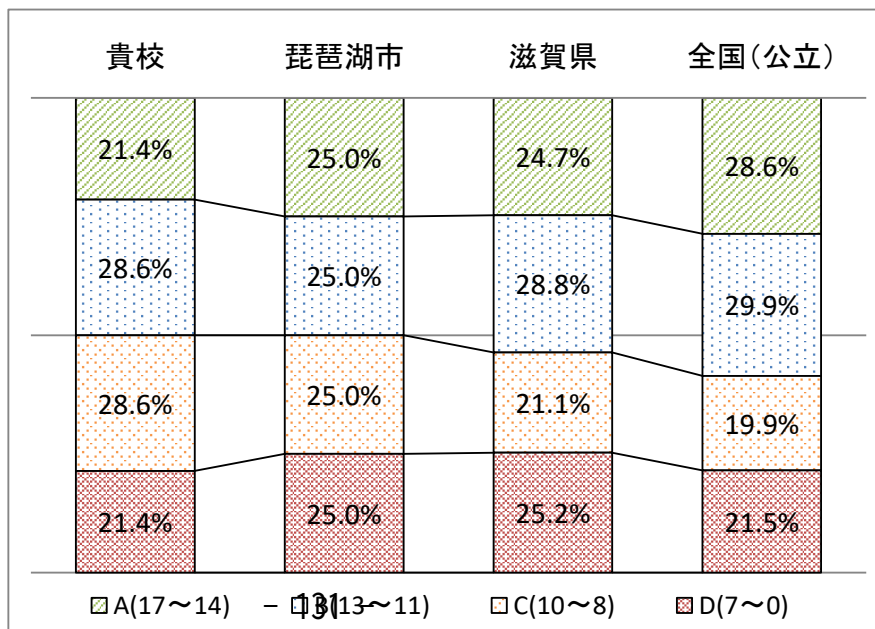
国語



算数



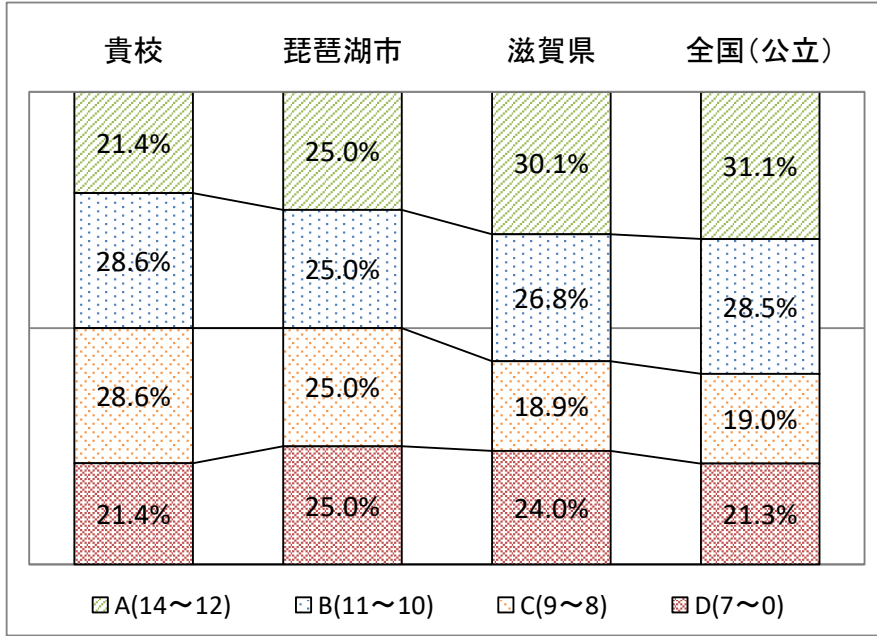
理科



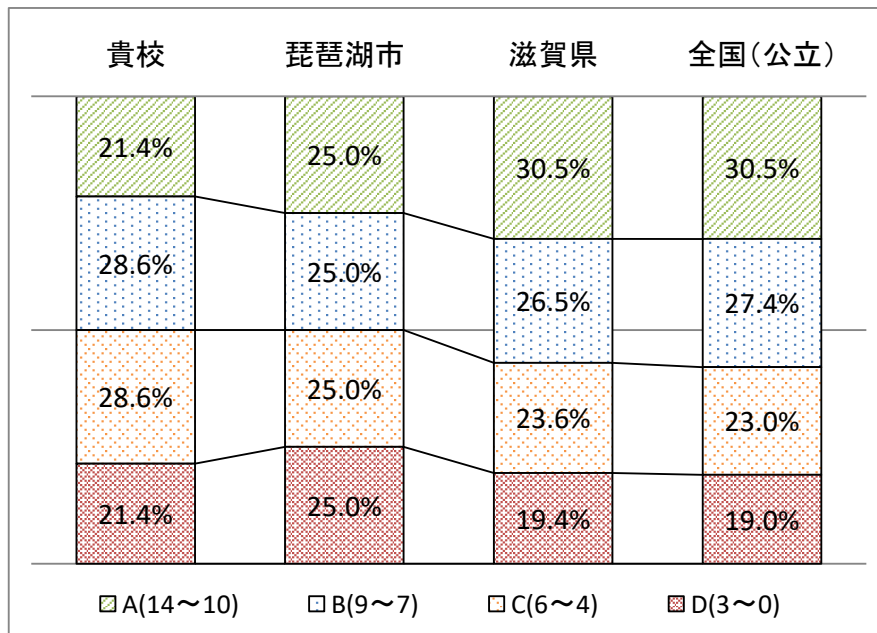
「学力層（四分位）分析グラフ」とは
 児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。
 提供された全国の四分位数を基に、児童生徒を4つの学力層（A層～D層）に分けたとき、
 各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「学力層（四分位）分析グラフ」です。

※文部科学省から提供された数値の関係上、各層の割合の合計が100%にならない場合があります。

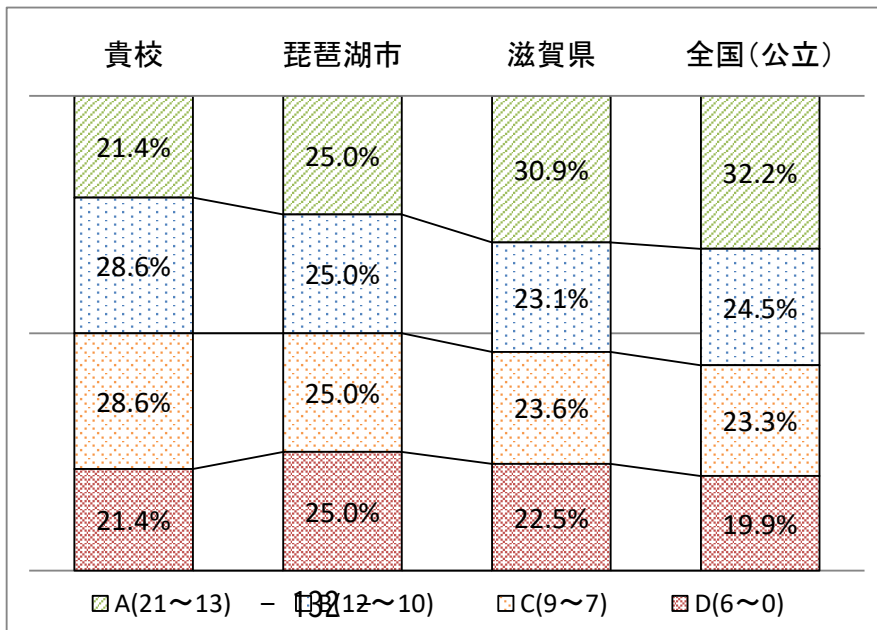
国語



数学



理科



令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査実施概要

(1)対象学年

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ・中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(2)調査の内容

①児童生徒に対する調査

- ア 実技調査 ※小学校、中学校ともに8種目で実施
 ※小学校は20mシャトルラン、中学校は持久走と20mシャトルランから選択

テスト種目		単位	体力評価	方 法
①	握力	kg	筋力	左右握力の平均値
②	上体起こし	回	筋力 ・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
③	長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
④	反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
⑤-1	持久走	秒	全身持久力	男子1500m、女子1000mの走行時間
⑤-2	20mシャトルラン	回	全身持久力	20m走行の折り返し回数
⑥	50m走	秒	スピード	50mの疾走時間
⑦	立ち幅とび	cm	瞬発力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
⑧	ソフトボール投げ ・ハンドボール投げ	m	巧緻性 ・瞬発力	ソフトボールを遠投した距離(小学校) ・ハンドボール2号を遠投した距離(中学校)
体力合計点		点	8種目のテスト成績を1点から10点に得点化して総和したテスト合計得点	
総合評価		5段階	8種目のテストをすべて実施した場合、テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価	

- イ 質問紙調査 (運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査)

②学校に対する質問紙調査 (子どもの体力向上等に係る取組等に関する質問紙調査)

③教育委員会に対する質問紙調査 (子どもの体力向上等に係る施策等に関する質問紙調査)

(3)調査実施期間

令和3年4月から7月末まで